

市政会・会派 行政視察報告

知立市議会議員 三宅 守人

調査事項「コミュニティー・スクールについて」

実施日 令和元年7月30日（火）

場所 福岡県糸島市

1. 導入までの経緯について

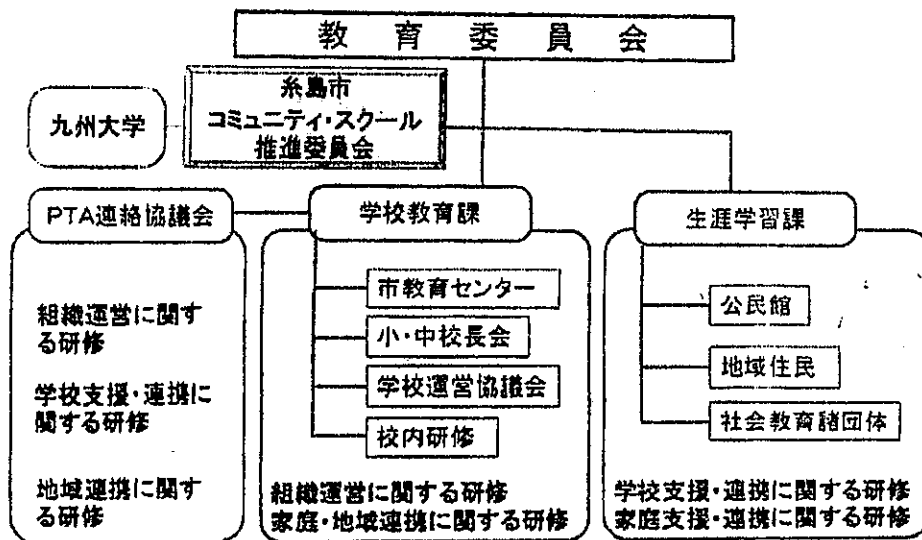
- ①地域による学校支援が盛んに行われてきた歴史
振興地域のコミュニティー・スクールとの違い
- ②開かれた学校づくりに取り組んできた歴史

コミュニティー・スクールにすることで何が変わるのか

学校支援の増大が目的ではない

学校運営への参画と協働+学校を核とした地域づくり

2. 地域への説明会や地域の協力について



3. 糸島市のコミュニティー・スクールと他市との違いについて

メリット⇒学校の教育力、保護者や地域住民の教育力が向上する。

社会に開かれた教育課程の実現に向けて充実している。

（子ども）学習や体験活動の充実、地域の担い手としての充実

（教職員）地域人材を活用した教育活動の充実

（保護者）学校や地域に対する理解、保護者同士や地域の人々との人間関係

（地域）地域のよりどころ、地域ネットワーク、防災体制

デメリット⇒学校支援の為に地域コーディネーターが配置されていないためコミュニティー・スクールの導入期においては、校長・教頭・主幹教諭が、地域学校活動のための連絡調整に少し時間を要した。

他市との違いについて

- 1) 校区公民館が小学校に隣接しているため、地域学校本部の設置はないが、公民館と連携・協働した教育活動が充実している。
- 2) 運動会や文化祭等を地域で合同で実施する学校が多い。

4. 所見

子ども達の将来を考えると、知立市は昔から宿場町として栄え、歴史的な文化が豊富にあり、特にユネスコ文化遺産に登録された、山車文楽があります。子供たちには大人になって、知立市に住みたくなる街づくり、地域の担い手になる教育をやっていききたい。

「教育は人づくりである」

市政会・会派 行政視察報告

知立市議会議員 三宅 守人

調査事項「福岡市の企業誘致について」

実施日 令和元年 7 月 3 1 日（火）

場所 福岡県福岡市役所

1.概要

政令市 5 番目の都市、アジアのビジネス拠点福岡、国内外からの企業進出や、新たな雇用の創出、市税収入は、過去最高を記録している、豊富な人材がある。

2035 年まで増加する見込みで特に福岡市への若年層の転入が多い。（九州大学学術研究都市構想）

2.ビジネス環境の良さ

福岡空港、博多、博多港があり、国内線、国際線 航空路線が充実されている。

上海・東京まで、90 分とアクセスに優れた福岡空港、整備された交通網でアクセスが良好

3.リーズナブルなコスト

オフィス賃料（東京の約 6 割）、平均年収（東京の約 8 割）

九州大学は 21 世紀「知の時代」にふさわしい「知の拠点」の構築を目指している。産業界大学、自治体の連携を強め、九州大学を中心とした学術研究都市を形成されようとしている。市民の 95% が住みやすさを実感している。

4.バックアップ拠点としての適性

地震リスクが非常に低く、東京圏との同時被災リスクが低い。又意外と台風の影響が少ない。都心部の浸水対策の強化

5.所見

7 万人の知立市としては、コンパクトシティを目指す。知立駅高架事業、駅周辺整備の完成後の企業誘致を進めなければならない。知立市は駅中心にした街づくりを考え、若い力を参考にて今回視察した福岡市に近づきたい。